

平成 7 年 2 月 1 4 日

送  
り  
先

MB (北陸) システム営業課 御中	丸善 (北陸) 営業課 御中	陸支 営業企画部	陸支 公共ビルシステム部
七宝 システム事業部 御中	NES 情報システム課 御中	(富山) 電力部	(金沢) 半導体・電子デバイス部
JMC 営業課 御中	北菱 情報機器課 御中	FAシステム部	FAシステム部
エム・アイ・エス 御中	MCC (北陸支所) 御中	公共ビルシステム部	電子・情報通信部

陸支 (富山) コ課



# 陸支コ課 情報

N o 2 6

## 内容

- ・ 1 周年を迎えて
- ・ O A 化について 第一回
- ・ 情報誌トピックス — 情報誌は発行責任者保管
  - 日経コンピュータ 2 月 6 日号
  - 日経エレクトロニクス 2 月 1 3 日号
  - 日経パソコン 2 月 1 3 日号
  - 日経オープンシステム 2 月号
  - D O S / V m a g a z i n e 3 月号
  - P C W A V E 3 月号

ソフトウェアは SRC へ！  
キャンペーンも随時実施中  
詳しくは SRC ニュースを

## 発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社  
電子・情報通信部 コンピュータ課  
稲崎義明

## 一周年を迎えて

陸支コ課情報も、2月1日の第1号発行から今回で一周年を迎えることとなりました。10回目、20回目と同様に一つの節目を越えたように感じます。節目となつて毎回内容に対する意見のお願いをしているのですが、これまでのところ特別なものはありません。今後とも、広範囲に渡る内容にして行きたいとは考えているのですが、ひとりで、作成しているためになかなか広範囲に渡るといふわけにはいかないのが現実です。専門に担当している方からの専門知識に基づいた内容が、ベストであることはあたりまえですし、内容に間違いがなくなります（これまでの内容の中にはだいぶ怪しい部分があったように思います）。これで26回目の発行となり、また今後の発行内容の充実をはかって行きたいと考えています。

さて、一周年を迎え、北陸支社内においてもO A化の推進ということで電子メールが導入されるようになりつつあります。既に情通本のシステムなど幾つかのシステムにおいて電子メールが三菱電機社内で利用できるようになっています。システム導入は、使用する環境があつて、システム活用の欲求がでてきて初めて使われるシステムとなります。そのために各種の教育がなされているわけですが、一周年を迎えたこともありますので、今回から社内O A化に関する特集をおこないたいと思います。

また、今回から配布方法に電子メールを取り入れてみることにします。まずは、新たに配布する部署についてのみおこないますが、支社内に電子メールが使用できるようになった場合には、基本的に電子メールでの配布のみにしたいと考えています。K、G R宛にメールを送りますので、必要に応じて印刷出力していただければと思います。確かに、コピーの配布ではありませんので課員の方々への回覧が面倒になるかとは思いますが、これも電子メール普及の一環と考えていただければと思います。実際に電子メールでの配布を中心におこなうことになる際に、改めて書きたいと思います。

また、本誌発行につきましては、発行責任者一人で基本的には個人的に発行しているものですので、多少発行日の遅れなどが発生していますが、努力はしていますのでご容赦願います。配布の中止、変更等につきましてはご連絡ください。

今後ともよろしくお願いいたします。

### 発行責任者

三菱電機株式会社 北陸支社

電子・情報通信部 コンピュータ課

TEL 0762-33-5508

MIND 520-2809

稲崎義明

## 1 . 概説

社内O A化は、その始まりはオフィスコンピュータの発売に始まるように思います（但し、このころのことは入社前のことでもあり十分な知識はありません）。それまでの企業内コンピュータは、一部で用いられていた汎用機、ミニコンが中心であり、総務などの事務処理は手作業という状態が続いていました（確かに未だに手作業のままという企業もまだありますが）。そこへ登場したのがオフコンということになります。オフコンは、一般企業に事務処理の一部をコンピュータが肩代わりをするという点で画期的なものであったとすることができます。確かに、企業のステータスシンボリックな面もあり、使われなまま片隅に追いやられたものがあったことも事実ではあります。しかし、これまでとは違った意味でコンピュータを受け入れられるようになったのは確かです。

次に用いられるようになったのは、ワープロです。ワープロは主に社内、社外向けの文書作成のために使用され始めました。それまでの文書は主に手書きが中心で、手書きで問題があるものは日本語タイプと呼ばれる特殊なタイプで作成されていました。日本語タイプは、印字できるすべての文字（ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、数字など）が1面にならなくて、印字するたびにその中から文字を選び出すもので、特殊な技能が必要なものでした。それに対して、ワープロは一応漢字変換が可能で、データは8インチのFDや10～20MB程度のHDに保存できるもので、文章を作成する人が自分でできるものとなりました（自分で入力する人はあまりいませんでしたが）。これも、職場のO A化としては特筆すべきものです。そうしているうちにパソコンが発売され、それが徐々に職場に配備されるようになってきました。

パソコンは、いろいろなソフトを入れることによっていろいろな業務に使うことができます。それまでのオフコンなどはどちらかといえば専用機でしたから、別の業務に使う時はそのためのアプリケーションを開発しなければなりませんし、ワープロは文書作成以外には用いることができませんでした。それに引きかえパソコンは、市販のソフトを持ってくれば、いろいろな業務にも、ゲームにも使うことができる便利なものであるはずでした。しかし、実際は購入はしたけれど使うのはワープロ程度、それもそれぞれが自分のデータをかかえ、他の人がつくったものは利用しようとしないうちが続いたように思います（確かにその当時は、一部のパソコン少年—私を含めて—といえるような人だけのものでした）。その中で出てきたものがLANです。

LANの導入によって職場のO A化はどのようにかわるのでしょうか。LANが導入始めたころ、アメリカは職場のコミュニケーション中心、日本はそれに対して資源の共有化中心として販売していました。しかし、実際使われなければシステムにはなりません。使うようにするするためには、使わなければならない状況にするのも一つの方法です。使うための電子メールも一つの方法です。（次回へ）

## (情報誌トピックス)

### ○経緯コンピュータ 2月6日号

特集 試練の時を迎えるインテル

RISC陣営と互換チップメーカーが挑む

→Windows NTの発売によってRISCプロセッサのインテルプロセッサに対する競合条件が整い、一方互換プロセッサはその性能で競合しつつある

Windows NTの普及によってこれまでのアプリケーション資産がRISCプロセッサでも利用が可能となる

動向 下請け脱して“横請け”へ、自立もくろむソフトハウス

→横の連携を計り、専門領域に強い複数のソフトハウスが集まりユーザに対応することによって、自立をもくろむ

NCインタビュー 独立系の強みを発揮、メーカーとの競争に勝つ

中尾哲雄—インテック社長

NCセミナー 電子メールの利用を成功に導く：4回連載

電子メールは企業を変える①

焦点を聞く マルチメディア機でパソコンに挑戦—バンダイ

→Mac互換機でPower PCと4倍速CD-ROM搭載で5万円前後の「POWER PLAYER」を発売するバンダイ

### ○経緯エレクトロニクス 2月13日号

特集 携帯型情報機器の未来

→鳴り物入りであった携帯型情報機器ではあったが、ユーザの反応は今一歩しかし、これからは携帯型情報機器の必要性が増す状況となる

1部 <用途の広がり>

「コミュニケータ」から「アシスタント」へ

2部 <「コミュニケータ」の仕様>

小型化を重視、双方向無線通信はオプション

3部 <「アシスタント」の研究テーマ>

日常生活を記録して、人の記憶を助ける

特集 2次電池に標準化の新風

「Smart Battery」がPC用に名乗り

→DuracellとINTELが定めた「Smart Battery」は携帯型パソコンの2次電池として一つの標準化になりうる

LSIやBIOSなどの対応部品の出荷始まる

1部 <国内メーカーの反応>

対応部品の出荷は始まるがパソコンメーカーは様子見

2部 <バージョン1.0の内容>

残量表示や充電制御に向け四つのインターフェースを定める

技術 赤外線通信

I r D A方式の赤外線通信、携帯型機器の標準機能に

→赤外線データ通信方式の標準団体 I r D Aの規格

H PのH P 2 0 0 L Xなどが採用、シャープのザウルスはA S K方式だが、日本 I B Mなど採用するメーカーもある

○日経パソコン 2月13日号

特集 W i n ノートの正しい選び方

主要14種類の徹底テストから選ぶ

フロログ W i n ノート、買う前の基礎知識

第一部 W i n ノート5つのチェックポイント

大きさと重さで選ぶ

速さで選ぶ

入力機器の快適さで選ぶ

液晶の見やすさで選ぶ

バッテリーの持ち時間で選ぶ

W i n ノート14種類、テスト結果のまとめ

第二部 W i n ノート徹底強化計画

デスクトップ機なみに拡張する

W i n ノートで客先プレゼン

携帯通信ツールとして使う

レポート オフィス機器

マイクロソフトの統合構想、A t W o r kはどこへ行く

→パソコンとオフィス機器を統合しようとするA t W o r kではあったが、開発グループは既に解散し、W i n 9 5に統合されようとしている

レポート O S

売れ出したB T R O N

→東大坂村助教授のT R O N計画に準拠したB T R O Nが秋葉原で初心者向けの軽い、G U Iを持ったマルチタスクO Sとして売られている

レポート P C W O R L D 誌から

四半期ごとに新機種登場、技術革新が生む95年型機

→95年型機を予想

○日経オプティクスシステム 2月号

特集 W i n d o w s N T

サーバは安くなる、問題はクライアント

→W i n N TをサーバとするとU N I Xに比べサーバは安くなるが、W i n N T、D O S / W i n 3 . 1、W i n f o r W o r k g r o u p s など選択肢は多いがどれも一長一短

解決はW i n 9 5待ちか

### I 部 機能と価格

価格体系の変更と機能強化で有力な選択肢に

→Windows NTを機能と価格から検討する

DBMSを含めた価格は格安だがクライアントが問題

### II 部 システム構築事例

NTを使いコスト削減に挑む、ツールとノウハウの不足に悩む

→Windows NT+Windows 3.1の組み合わせが多いが、開発ツールの乏しいことが課題

### III 部 アプリケーション

DBMSや管理ツールが増え、開発ツール不足は続く

システム検証 NetWareゲートウェイサービス

Windows NTに既存のNetWare環境を取り込む

→ゲートウェイサービスはWindows NTのサーバがNetWareのクライアントとなって、Windows NTのクライアントからの要求を代行するもの

オープンフロント 業務アプリケーション密着型メール

電子メールと業務処理を融合し、大量印刷や対話処理を削減する

→電子メールと業務アプリを結び付け、大量印刷や画面を使った対話処理による情報流通を電子メールに置き換えることが可能となりつつある

オープンサーバ Windows用のかな漢字変換ソフト

日本語入力の支援機能を業務システムで生かす

ソリューションの奇跡 YKKの購買/OAシステム

複数部署にまたがる業務フローを支援するシステムを作る

→購買システムはFAXのイメージデータを活用、OAシステムは市販のパッケージを活用

オープン 세미나 オンラインメンテナンス入門

自分の机に居ながら、遠くにあるPCのトラブルを解決する

寄稿 中電(中国電力)技術コンサルタント

基幹システムをC/Sへ移行し、汎用機の年間コストを半減する

## ○DOS/V magazine 3月号

特集 大研究! WindowsワープロとIME

→Windowsワープロがそれぞれにバージョンアップされ新世代の製品と呼ぶにふさわしい仕上がりとなっている

Overview Windowsは日本語を把握したか

→マシンの高速化により手に入れたWindowsワープロの快適さ

Part1 Windowsの日本語処理

→Winはいかに日本語を取り込んだのか

Part2 最新ワープロのパフォーマンス

→各種ワープロの比較

Part3 Windows IMEの研究

→IMEの構造とプログラミング

Part4 最新IMEを比較する

→各IME紹介と変換効率のチェック

小特集 PCIがもたらす新世代アーキテクチャ

→新しい拡張バスとして注目されるPCIの解説

・詳説PCIアーキテクチャ

・PCI対応製品を検証する

緊急レポート 姿を現した次世代パーソナルOS

「Windows 95日本語版」

→Win95のベータリリース開始、発売は秋？

### ○PCWAVE 3月号

特集 検証「MPEG再生ボード」

→各種発売されているMPEG再生ボードのチェック

Part1 MPEGデコーダボードの選び方

→新製品緊急レポート

Part2 MPEGデコーダボードをテストする

→デコーダボードを使用する際の留意点とボードのテスト

特集 マルチOS環境の構築

→一つのパソコンに複数のOSの時代から、マルチOSにしているいろいろな実験環境の実現

Part1 DOS、OS/2、Windows NT、Linux、NEXT STEPをインストールする

Part2 OS相互の親和性を検証して見る

OSのインストールは、自動認識によるものが多くなる

Part3 インストールのためのトラブルシューティング

酒はぬるめの爛がいい。マルチOSには古めのボードがいい

Review デジタル携帯電話を活用して機動性ある移動体通信を実現する必携アイテム「PDCAカード」

<その1> 日立のPDCAカード「HT4840-40」

<その2> NTT DoCoMoの「デジタルデータ/FAXカード2400」